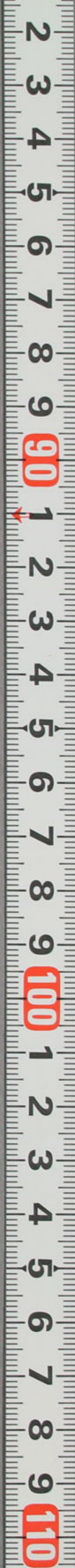




古田道灌雄飛録

四

^13
R915
4



門へ13
號3915
4



太田道灌雄飛録卷之四

目錄

- 一天子ニツの日双びびる事附り上杉頭房五十二子おそ率あかす
- 一太田道灌上洛の事附り専政公へ謁見義勅答御奇の事
- 一成氏長尾昌賢と武州今井軍の事
- 一 附 結城成朝武州の事
- 一成氏長尾昌賢と武州六郷の事再び軍の事
- 一 附 小机陣正左衛門の事柄の事
- 一古河方政知と伊豆國三島わく合戦の事
- 一 附 古河方敗軍の事
- 一長尾昌賢古河の城を落し成氏千葉へ退去の事
- 一長尾景春逆心附り太田道灌異見の事
- 一 道灌と二杉と系表保叛を勧む附り系表保叛の事

六十八 廿九
本大學出版部
贈

昨夜の御書とてしるす
神田の社にてありしよし
侍りしに

大田道灌

晴るる夜中のしるす
あつたる夜中のしるす

大田道灌雄飛録卷之四

東都 木村梅幸忠貞編輯

○天の二日の日及び出る事。附り上牧野頭陣中にて率兵の夏
長福も後四年の十二月廿二日改元ありて寛正元年とぞあり
ふり。然るも明徳二年辛巳正月元日天の二日の日及び出る。天変地
妖の世に同つてさるの世にふり。女名思深といふ。今もあも
穩まらざる世の中。又いある事。秋出るといふ。敬上人よりかきて。
下る旅しと農まゆり。魂の消し。膝を冷まはるといふ者あり。されど
京都の安徳山入道徳本が家督の付。政長義就遺跡とありし。いふ。
軍始りしより。上りも何とせん。秋とて。又東國の山内。兵部少輔房
頭武敏五十子より。在陣して。屢御所方を敗す。日あききて。一統の

大田道灌も知りて、文正元年丙戌二月中旬、千條孫と率、
古河の城へ向ひける。其軍かきあはし、成氏も麾下の法將をあへん
らさる。小千條孫の着到なり。小勢より、成氏も軍と猛々我を
かす。是より、石段城の楮より、要害となりて、隙んと陣定あつたり。小
治政中、勢少補、成朝進と、あさやまの城、おとつり、止む事なほ
ゆゑ、勢、今、勢城、せ、敵、氣、と、音、味、方、乃、勇、と、屈、又、後、治、の、助、を
ちり。さう、この、時、糧、米、積、小、是、一、落、城、隙、中、あ、る。一、騎、さ、う、も、亦、て
お、豫、念、勢、と、待、待、人、よ、味、方、お、か、つ、る、者、あ、つ、て、お、ひ、り、に、成、氏、勢、の、八、千、騎、味
方、も、二、千、あり。敵、の、と、主、と、比、ぶ、ん、二、人、は、お、當、る。成、念、の、軍、あ、り、
程、お、り、相、お、り、せ、り、ん。の、ま、ま、り、お、び、り、敵、ま、あ、つ、せ、り、き、て、兵、負、け
る、と、ん、と、お、ち、お、の、石、を、お、り、成、氏、勢、武、勇、と、お、り、遣、し、り、り、の、代、を

成神速と貴ぶる。一、つ、り、の、成、朝、先、陣、は、蹴、散、し、て、捨、り、ん。途、中、あ、つ、
一、戦、一、成、尾、入、道、よ、味、方、を、お、り、る。お、ち、一、つ、も、利、ま、る、ん、其、一、つ、は、お、ち、成、城
も、然、る、と、成、手、成、勵、ま、理、と、説、く。人、々、言、ふ、勇、も、も、鏡、士
勝、り、と、二、千、餘、騎、古、河、の、城、と、亦、て、武、藏、國、豊、嶋、郡、今、井、の、城、と、亦、て、出、張、
して、け、し、陣、と、お、り、成、尾、の、者、も、お、ち、お、り、小、勢、と、陣、あ、り、成、氏、
離、れ、て、遠、く、他、國、まで、亦、つ、り、る。お、ち、お、ち、お、ち、お、ち、お、ち、お、ち、お、ち、
て、八、千、餘、騎、の、軍、を、お、り、ひ、く、進、む。お、ち、油、断、せ、り、お、ち、お、ち、成、氏、
あ、つ、り、と、成、氏、も、お、ち、お、ち、お、ち、お、ち、お、ち、お、ち、
し、き、者、お、り、お、ち、お、ち、お、ち、お、ち、お、ち、お、ち、
ち、お、ち、成、氏、の、大、勢、を、お、ち、お、ち、お、ち、お、ち、お、ち、
失、く、僅、小、お、ち、お、ち、お、ち、お、ち、お、ち、
下、総、の、千、餘、と



長祿二辛巳年正月
 元日天に二ツの日双入
 諸人驚愕るる圖



討つて瓜畑の今井の馬を奪りければ。女氏お好りよし。悦ばるる。先陣小
軍ありて味方助也。と。も尾陣の陣を聞え。つ。田原の道。大勢の馬。二千
餘騎と引率。馬と早りと。よ。せ。今井の春を吃と。る。小勢の多。お。わ。れ
孫ども。二。引。旗の旗士。流。海。う。松。風。龍。地。の。く。吹。魔。を。堂。として。押
お。ひ。も。尾。入。道。と。と。と。敵。い。ら。あ。て。小。勢。あ。ん。分。内。披。き。谷。向。あ。て。の。大。勢。の
進。退。石。自。在。あ。て。却。く。小。勢。又。利。と。得。く。ま。え。あ。の。草。の。原。へ。押。と。げ。て。孫。合。ま。え
軍。せ。よ。と。三。千。餘。騎。の。兵。も。曳。や。声。を。出。し。て。青。ら。ら。ら。の。勢。も。う。百。餘。騎
坂。り。り。と。て。旗。と。さ。う。て。ま。ん。ご。射。り。ま。れ。ば。先。の。兵。士。二。三。十。人。矢。場。小。指
の。側。へ。射。付。ら。れ。の。外。も。肩。ひ。の。殺。と。ま。ら。ば。され。ど。故。も。流。石。も。名。無。死。人
此。上。を。奪。取。く。糧。ま。く。坂。と。お。り。て。敵。陣。を。入。渡。せ。り。若。干。の。大。勢。あり。是
ゆ。ゆ。や。膽。り。ん。馬。と。い。て。進。む。ゆ。ゆ。女。氏。の。三。千。餘。騎。を。二。千。餘。騎。に。先。陣。を

結城成朝一千餘騎。二階へ下総勢一千騎。今一。入。津。所。女。氏。一。千。騎。先。陣。二
階。我。の。疲。乏。と。い。へ。入。勢。ん。と。撞。え。ら。る。結。城。成。朝。の。先。刻。の。多。合。目。小。勢
も。半。あ。り。お。率。も。よ。う。さ。す。み。山。下。私。兵。と。い。て。く。静。小。馬。と。い
ゆ。敵。陣。邊。く。あ。り。え。一。矢。射。ち。が。る。程。と。あ。き。あ。降。た。り。ひ。入。れ。進。む。に。は
東。西。へ。馳。せ。旗。旗。南。北。よ。り。れ。け。付。り。付。り。あ。り。ま。る。う。血。の。混。じ。り。て。河。原
を。一。層。の。墨。と。と。と。同。お。似。え。ら。る。お。好。り。付。り。私。兵。願。を。馳。入。り。て。戦。へ。た。
奮。と。と。の。る。急。小。勢。も。う。り。て。驚。色。は。女。氏。地。上。下。さ。り。ま。る。さ。り。ま
疾。む。ら。れ。も。あ。く。ま。行。き。ま。り。ま。り。新。乃。ま。を。看。み。既。小。射。へ。り。と。成
氏。遙。よ。ん。と。百。智。の。白。浪。と。り。入。旗。是。と。奪。取。せ。り。勢。の。中。より。百。餘。騎。を
追。ら。れ。ら。る。女。氏。と。ま。よ。か。と。い。て。な。り。も。扇。く。戦。へ。二。陣。を。備。へ。下。総。勢。
備。田。河。原。守。と。好。り。と。て。一。千。餘。騎。時。々。と。や。お。り。ひ。え。た。り。ひ。疲。乏。と。

長尾勢の模合より。急の掛りや敵とすく馳出せば。成氏もめ百餘騎と
 繰出さば其れもよ智んと進まず。長尾勢の長途を走るのみあはれ先陣の
 敗軍と聞くと馬を早めて馳来まよまよ峻しけ今井の臺よりまかり。
 成氏もあはれしるしるし人馬とも息をつぎし氣力屈して引かつてくるや
 重なり荒れ多し百餘騎あがりたりあせまればさうい智射も堪へば我の
 術もあはれ我先めと進まふ結陣のいよく勝小意て後あけて進付て
 今井の臺の原の方より谷に向ひて人類を落し縛ひ人馬まうて死
 ころの殺と知ると。適助も者弓矢ちかかと捨つるのうらたき。其の
 御民もあはれし徳付てぞあはれさる。鎌倉勢も千騎の一方散れ一
 集あはれ。昌賢入道もせんさあ神奈川まで引退と。植現も小陣と
 市川松戸へむいひる。二千餘騎を侍もつ法金入とぞゆるさる。さう程も成氏も

討ある首級三百四十七竿結ひまうして今井の臺も懸あはれ。凱歌三度執
 行ひ古河の城へぞ返りてさる。其の後武士も忠賞をば中も結成軍
 功被群をりとも。武藏相模上総下総の國も小由領少く有し。紙分ちと成朝
 由賜ひさる。成氏鎌倉を退去ありて。古河へ移られ。後ハ威光日く衰へ
 武士よるる所領もも百姓種も難儀。收納も減少しるる。理をさる
 成氏へいさる半も慈仁の公薄く。我々のと事と他人の異見を拒み。心
 奪りて怒りたり。かかれ行路の將をれへ親と馴る者稀なり。自然成氏
 徳も衰微しり。その後結成成朝も小由領をのりとも。結成小由領もさる。も
 成氏朝も本領も悉くか散り他人是を知行も勢傾の形勢へ御所成氏へ
 忠節と盡し。さる遺跡の領地も彼も強のれ。さる不忠の族押領も
 さる。東國へ御所管領を始りて國を諸將小とす。忠と不忠の吟味

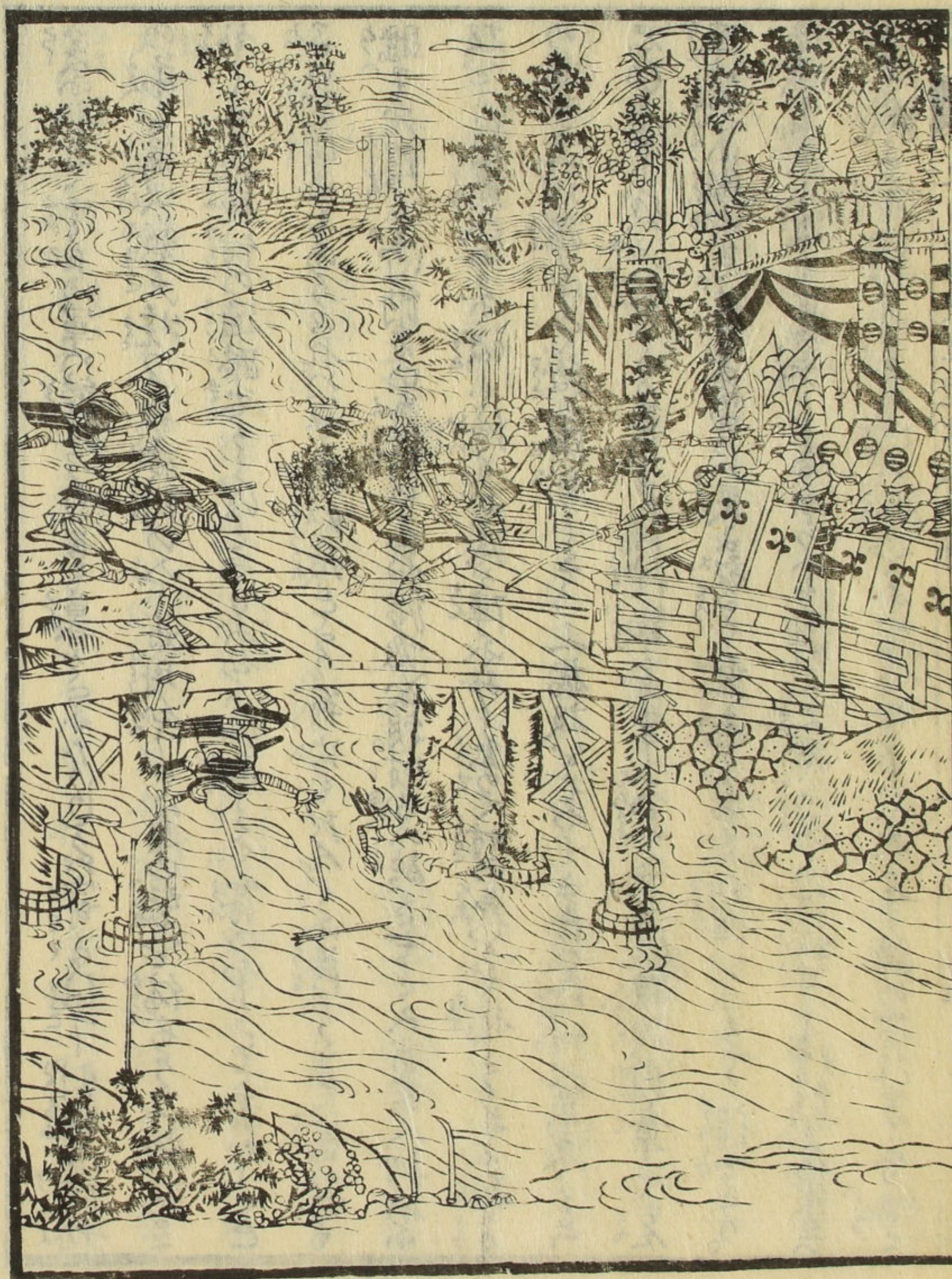
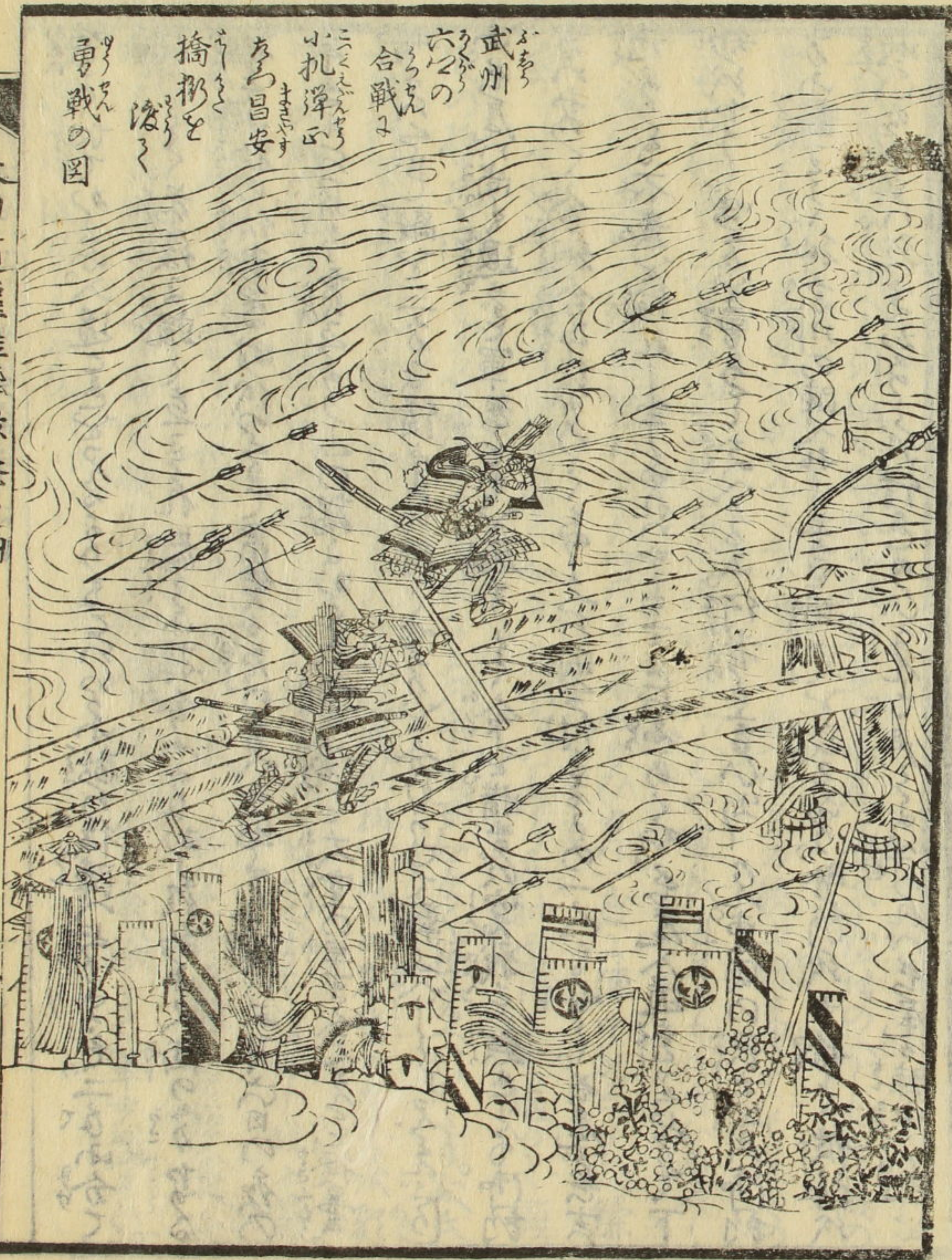
も好く親跡ふらりて賞罰あれた。人の眼も見る由多ふ。合戦野付止む
間う。世所は流季よあふふと思ひあふ。君臣上下の法外違へ奴婢従僕
の輩ゆてを敷く世の中くうゆる事こそ為情多し。

○成氏昌賢と武忍の御合戦野付小机彈正左衛門武勇の事

はるちど小長尾入道昌賢へ今井の軍兵一員て鎌倉へ逃返りて。上校顯定も
無念の事ふかりし。再兵と借りて古河の城と攻落し。今井の死辱と清ら
と。文正元年二月。上校民部を補頭定并も尾入道昌賢は是六十餘騎己
古河へ發向せし。下総ゆへ成氏由とせり。今度も途中まき。馳向ひ
路次ゆて唯雄と決見と。城ゆへ僅に三百餘人と残り。其身ハ二十餘騎を従へ
武藏の虫へお出され。以前乃勝軍ふあひる者ども。此所彼處より馳着きて
三千七百餘騎をとり。五百餘騎を引分け。終る所の志し強し。尚む是を

大田道灌當時ハ在鎌倉ゆて。扇谷の定正の館小居されども。若長城と守
ふ。ゆども。後成龍勢ふ事。何ん時乃為とて。置き。成氏ハ三千二百餘
騎六郷乃川と前小當橋板五間。楯楯の料とて。敵陣とて。待り
ま。然る小結城成朝進とて。やま。己今井の戦ひは味方利とゆ
夏ハ敵兵油断りも。多々。振く。付猪ゆぬ。今度ハ。小機。情事の公と
按。小機。然る勢の生張延引。一ツの深とせり。小機。中絶城ゆて。防戦有ん
ゆ。急。落。敵。軍。多。亡。入。小機。然る勢の發向延
引。聞。あ。小機。今井の勝利。あ。小機。離。中。途。ゆ。戦。ん
たの時。大勢の中。さ。起。て。一。も。決。さ。と。射。な。ん。の。機。ゆ。て。ゆ。ん。然。後。小機
此川一ツを。殺。て。尋。常。の。軍。で。必。定。は。方。利。を。失。ん。昔。より。今。小機
ふ。は。で。大。勢。に。敵。と。川。を。隔。て。た。り。多。勢。の。方。を。渡。され。小機

武州
六甲の
合戦
小札澤正
安昌安
橋形と
浪
勇戦の図



○古河方。伊豆の政知と三嶋を戦ふ事。其古河方級軍の事

應仁元年より文明年中より。政知の伊豆の北條堀越の所領不居たり。
 成氏の古河不在故とあり。伊豆の東國と争ひ上夜に政知の後領より合戦止む
 所あり。これを成氏へ世傳の將軍ふか傲了。文明三年辛卯二月。結城小山不令
 とて伊豆へ遣つ。政知の討んとし。是へ東國の所領也。政知止む。再成氏東
 國の事あり。との討集ふたりてあり。結城小山。千葉の西へ還き。率し。
 潛不箱根山と戦ふ。伊豆の三嶋より政知の不言成勢と備とあり。政知の方
 三嶋の勢あり。されば防禦より便あり。早馬をりて駿河の今川範忠に接を
 とせし。之を人に出さし。敵の名の中へ救及の軍より功を積む。結城小
 山の者どもあき。政知方勢よりかむんとし。此より下夜に彼官。矢野女流へ
 道せり。すくく。其後。政知の加勢とて結城小山。飯路瓜多切。後陣より賣

かまへ。結城小山の事。其の事。二ふり多けて戦ひ。後と討む。事

由多不。根小。一。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

故政定。伊豆の役人。宇佐美藤三郎。孝忠。二。三。四。五。六。七。八。九。十。十一。十二。十三。十四。十五。十六。十七。十八。十九。二十。二十一。二十二。二十三。二十四。二十五。二十六。二十七。二十八。二十九。三十。三十一。三十二。三十三。三十四。三十五。三十六。三十七。三十八。三十九。四十。四十一。四十二。四十三。四十四。四十五。四十六。四十七。四十八。四十九。五十。五十一。五十二。五十三。五十四。五十五。五十六。五十七。五十八。五十九。六十。六十一。六十二。六十三。六十四。六十五。六十六。六十七。六十八。六十九。七十。七十一。七十二。七十三。七十四。七十五。七十六。七十七。七十八。七十九。八十。八十一。八十二。八十三。八十四。八十五。八十六。八十七。八十八。八十九。九十。九十一。九十二。九十三。九十四。九十五。九十六。九十七。九十八。九十九。一百。

責より。鬼神の。聞え。千葉。結城小山の者ども。難。政。糧。食。水。

飢。事。長尾。昌。賢。古河の城を。落。附。成氏。千葉。退。去。の。事。

○長尾昌賢古河の城を落し附成氏千葉退去の事

ゆるや。上。夜。方。箱根山の軍。小。勝利。を得。其。勢。の。不。乗。て。古河の城を。攻。め。ま
 ん。と。文明三年。五月。の。半。尾。入。道。昌。賢。大。勢。を。率。し。下。総。の。國。へ。發。向
 と。古河。方。も。今。夏。に。結城小山。も。合。合。三。日。を。経。る。勢。多。く。されども。一。戦。も
 及。び。ず。て。落。行。ん。も。念。念。形。り。大。敵。を。引。續。く。運。を。一時。は。試。み。んと。言。か。ま。成

多し。是よりて捕依の内差願無くはらざるべし。國受が才。毛尾尾
 張守た系中付けらるる。然るも毛尾尾は門尉景春の故入道が
 嫡子あり。毛尾一家の中あての有力の大名あり。後々老父田原忠孝他を
 異あるゆゑ。上杉の家務職に就ありてのいかに居らるる。女系もまじひて
 伯父忠孝も中付け近し。生後後わきまあり。大に政定と眼を憤りて
 忽て政定を企圖せんとす。己が本意を達せんとす。我一人
 の力ありては捕らざる。これに扇が谷谷引入れて。政定立び管領に定む一人小
 歸し中え。然るに扇の國も多くなり。皆中も数多弛まらん。かくして中を
 退治せり。其功速よ成す。と勅あり。定正は比同くあり。あれ最上乃
 謀略ありと獨嘆して。さうも中入返に扇が谷の執事あり。時中後者
 自ら入道降ふると。徳合見んと。民衆の在王へあり。道隆は對面。寒暖語

終りと素ま。水田が側近く居りて。家よ宿意のおもむき。代後り。能が
 谷後必は定許容ゆえん。足下も又さむ。此事能く言上し。のこ思
 入してこそ。道隆つくく足と聞て。さうや一大事あり。禍根不蕭牆乃
 同よ起し。中中あきく。とらむ。さうね。解よりてれ。足下の憤憤道理
 あり。然るに。山の内後解事あり。二代相恩のま君あり。足下親
 父とし。功ありとも。臣あり。臣とて君不仕。粉骨砕身をとも
 擧げ。不誇るべき。理あり。持不忠逆公の者。後政全する事は。本朝異域
 の遠き昔のゆゑ。赤松滿祐が義教公を弑し。命を白旗の味方
 落し。長棟庵主の持氏々。公のい。も。軀を中園の寺院に隠す。毛尾の威の強
 き。上杉家存る。さる。上杉又東國の徳ねと指揮す。又後領の任重き。は
 あり。皆是公事あり。其人の私意あり。此事三思の後。そ。忍み。め。

のうとて下されば。京春のふも足下のすさるる。大道の確論ありぬ。今うかすか
擾乱の時々のありて。聖人の用する所あり。其暗主は廢しく明君は立ん
ふ。何の不安といふ事やあらん。我を脱し使せりて。面色変して見えたる。道灌
尚も禍を拒む。其主は擁護する事と云ふんとも。君暴虐あるべからず。其
絶つと患ひて。祖先の祀を絶ぎ民を安んじんとする。いまは私の眼を以
てとて事と云ふ。祭と南無。紛と鹿臺。燔と成湯。武王
の万民の塗炭成淵。人皇人のよき。聖人の徳ふれば。天を裁する罪有り。
主は裁する者。行の端を以て其首を斬る。是天下の大法あり。事を別
てさるると教諭す。京も流石。道灌も志の細かき人。謝。それより
酒肴を没りて。一者身入。京もいとのを告て。己が所へ傳

らるる。兎角此事止む。密に遂意の計案。昼夜ふと。あせりて
らるる。

○道灌上校顯定へ景春謀討を勸む。附り京長保親の事

かゝるち。田道灌へ。京長保親。捨て置く。思ひて五十子乃陣へ。顯定
も得見。一も七尾。京長保親。智凌じ。事不。就き。嫉む。解り。
されば。伊家の執事。入る。び。た。る。よ。ゆ。も。父。の。道。志。功。を。さ。る。め。り。
武藏の守。後代。を。傳。せ。け。る。事。不。和。なる。事。不。和。後。は。む。京
も。い。の。め。し。用。を。令。せ。れ。一旦。伊。國。の。事。も。入。遣。つ。る。事。
ま。よ。公。辭。す。と。い。ふ。内。外。よ。く。協。入。の。り。海。中。を。あ。ら。は。し。退。治。の
心。の。傳。を。す。京。も。京。長。保。親。の。者。も。狼。藉。の。族。日。代。遣。て。多。く。な。る。
遠。く。す。く。は。京。長。保。親。の。事。不。和。能。く。は。得。と。い。ふ。事。不。和。能。く。は。得。と。い。ふ。事。

